

2018 年 1 月



2018 年 社長年頭挨拶

株式会社 MCBI
代表取締役 内田和彦

皆様、新年あけましておめでとうございます。

年頭の挨拶は、2017 年を振り返り、それを踏まえつつ新たな気持ちで 2018 年を迎えるためのものであり、また経営者の考えを改めてお伝えする機会でもあります。昨年は当社にとって大変重要な年でありました。島津製作所、太陽生命から新たに出資を受け、両社との事業連携を進める基礎ができたことは喜ばしいことであるとともに重大な責任を担うものです。

当社はアルツハイマー病などの認知症の前駆段階である軽度認知障害(MCI)を早期に見出す血液検査を世界で初めて事業化し、さらに認知症予防に向けた取り組みを進めています。当社の事業は、少子高齢化が進む中、疾患の予防という立場で、我が国の社会保障の一翼を担うものと自負しており、高齢化社会における健康寿命の延伸による生産性の向上という意味では、電力などと同様に、基幹産業と位置付けても良いように思います。

明治一桁生まれの実業家で電力王と呼ばれた松永安左衛門翁は、『事業は「合理的な体制で、最も経済的に」運営することが課題である』と言っています。少し次元は異なりますが、電力と鉄道がそうであったように、当社の事業もまた、検査による早期発見と予防、リスクに対応するための保険など、病気になった時に必要なサービスが一体であることから、事業連携をもとに、集中した形でかつ大きく事業運営していかなければなりません。

現在は第 4 次産業革命と少子高齢化というパラダイムシフトの真ただ中にあります。すべてのモノがインターネットを通してつながり、人工知能(AI)が人間の仕事を効率的に代行する時代です。少子高齢化にともなっておこりつつある、予防も含めた医療需要は、従来の社会保障制度では対応できません。リスクが現実化したときに備えて、医療・介護とその予防、住まい・生活支援等に関するサービスが身近で供給される体制を構築しなければならないと考えています。

そのためには、従業員は日々の仕事をこなすのではなく、1 年、2 年先の姿(目標)を念頭に今やるべきことを逆算して業務にあたり、経営者は 10 年、20 年先を見通して事業にあたらなければなりません。

新年を迎え気持ちを新たにして、「いっちょやっつてやろうという気概」で、事業に取り組んでまいりましょう。